



ぐるり庄原 Look Around Shobara カメラレポート カメラレポート

各地で行われたイベント&話題をお届けします。

REPORT ④

「敦盛さん」絵はがき発行 市無形民俗文化財指定50年記念

庄原市無形民俗文化財に指定されて今年で50周年を迎える民謡「敦盛さん」を記念して、「敦盛さん」保存会(児玉節会長)が絵はがきを発行しました。絵はがきには歌詞と舞台写真が入り、平敦盛が玉織姫との出会いから、一ノ谷の合戦で熊谷次郎直実に討たれるまでの場面と、玉織姫が源氏の追っ手から逃れ、永江の里(庄原)に落ち延びた場面が描かれています。2枚1セット300円で300セットを限定販売しています。企画した清水季子さんは「絵はがきを使用してもらうことにより、舞台を観たことがない方にも郷土の伝統芸能を知っていただき、庄原市をPRしていきたい」と話しています。「敦盛さん」保存会は3年前に再結成し、毎月第2・第4土曜日に練習に励み、庄原よとこ祭や庄原市民俗芸能大会、県民文化祭などで上演しています。絵はがきの購入については、事務局(栗原 ☎0824-72-3566)まで。



▲歌詞と舞台写真が入った絵はがき

和太鼓とインド楽器の共演 太鼓ライブTOJO

REPORT ⑤



▲tabla・シタールと鬼神太鼓の共演

鬼神太鼓と東城町観光振興キャンペーン実行委員会が6月6日、東城町老人福祉センターで「太鼓ライブTOJO」を開催しました。子どもたちの息の合った和太鼓演奏を披露した広島市の「宇品みなと太鼓」をはじめ、口和町の「口和備神太鼓」、東城町の「鬼神太鼓」や「ひばん婆太鼓」が力強いばちさばきを披露しました。インド楽器のtabla・シタールの演奏では、観客と一緒に手拍子でリズムを刻む場面もあり、会場内が一体となって盛り上がりました。尺八・ドラム・ギター・ボーカルなどとの共演もあり、観客は和太鼓の新たな魅力を感じていました。3回目の今年、チャリティーコンサートということで入場料の一部を福祉のために寄付されました。

REPORT ⑥

子どもたちの記録更新を支援 上野総合公園「アスリート教室」

上野総合公園のアスリート教室が5月26日から始まりました。この教室は、庄原市陸上競技協会に所属する地元アスリートが指導。豊かな経験と技術を伝えることにより、子どもたちの記録更新や体力向上を目指しています。初日は、「もっと早く走れるようになりたい」と小中学生約60人が参加。短距離走や走り幅飛びなど、自分がやりたい種目に分かれて汗を流しました。松森稜くん(庄原小5年)は「走る姿勢を教わり勉強になった。秋には100mを17秒ぐらいで走りたい」と目を輝かせていました。企画した恵木剋行所長は「今年は県民体育大会が上野総合公園で開催されるので、その大会に向けて子どもたちの記録を伸ばしていきたい。庄原市はボストンマラソンで優勝した田中繁喜さんをはじめ多くのトップアスリートを輩出し、陸上王国と呼ばれてきた歴史



▲障害物を置いて走る姿勢を学ぶ

がある。ここから世界で活躍するアスリートが出てきてほしい」と話していました。この教室は、10月6日まで隔週火曜日の17時30分～19時30分で行われます。申し込みは上野総合公園(☎0824-72-7201)まで。

REPORT ①

夏山シーズン到来 吾妻山山開き

6月7日、吾妻山池の原で「吾妻山山開き」が行われました。比婆山に眠るイザナミノミコトへ夏山登山の安全を祈願する神事式の後、比和牛供養田植えの植拍子が原曲となった「県民謡バイ流し」や「比和音頭」などが披露されました。比婆牛ももの丸焼きや特産品の各種バザーコーナーが立ち並ぶ会場では、子どもから高齢者まで幅広い年代が地域住民との交流を深めながら、登山やハイキングを楽しみました。吾妻山は高山植物の宝庫と呼ばれ、初夏はタニウツギやレンゲツツジが咲き乱れ、山頂からはパノラマで自然の美しさを楽しむことができます。



▲県民謡バイ流し

神楽や太鼓で山開きを祝う 比婆山・道後山

REPORT ②



▲道後山山開き

西城町の比婆山、道後山で山開きが開催され、本格的な夏山シーズンが到来しました。5月31日に竜王山山頂近くの駐車場で開催された比婆山山開きでは、夏山登山の安全祈願の後、西城川太鼓の演奏や田植踊り、比婆荒神神楽が上演され、登山客から拍手と歓声が飛び交いました。会場では、地元自治振興区「神話の里熊野むらづくり推進協議会」のメンバーが、比婆牛のパーベキューや地元で養殖したゴギの塩焼きなどを販売し、登山客らは初夏のすがすがしい晴天の下、地元の特産品に舌鼓を打ちました。また、6月21日には道後山山開き・つつじ祭りが開催され、その名のおり月見が丘周辺で満開を迎えた赤いつつじやピンクのタニウツギが訪れた登山客を魅了しました。



▲比婆山山開きの神楽

REPORT ③

子どものがんばる姿に大声援 総領小学校運動会

総領小学校の運動会が5月24日、「スマイル ファイター」をテーマに開催されました。小雨が降る中、児童96人の力強い入場行進で開幕。子どもたちは班ごとに「全力を出し切る」「応援をがんばる」などの目標を立てて、各種目で練習の成果を発揮しました。3・4年生が踊る「よさこいソーラン」や、5・6年生が演技する「組体操」は総領小学校の伝統的な種目。組体操が成功するたびに大きな拍手が起こりました。保護者は「ゴールを目指して一生懸命走る姿や最後まであきらめない姿に感動した」と子どもの成長を喜んでいました。近年、小学校の運動会は春の開催が増え、市内21校中17校が5月17日～6月7日に実施しました。



▲竹の棒を持ってリレーする「台風の日」

REPORT ⑩

庄原市の味を映画館でPR
食と農の映画祭に参加

庄原市のまちづくり団体「さいたら研究会」が5月24日、広島市の映画館サロンシネマで開催された「食と農の映画祭inひろしま」に参加し、自分たちの経験に映像を交え、庄原市の食や農の現状について発表しました。

早乙女姿で登場した出演者は、ユーモアたっぷりのパフォーマンスで会場を盛り上げ、庄原の良いところをPRしました。また、山菜や野菜を直売したほか、「すくもくど」で炊いたご飯や、「さくら寿司」をふるまったり、漬物や野草茶などを「食べてみんさい」と勧めたり、庄原の味を紹介。野菜を購入した方は「食への関心を高めたうえで、こういった商品が手に入るの素晴らしい」と大絶賛でした。

「さいたら研究会」は、市内の女性を中心に井戸端会



▲持参した商品はどれも大人気で完売しました。

議で地域づくりのアイデアを出し合い実践しています。この活動へのお問い合わせは自治振興課(☎0824-73-1209)まで。

緊急事態に備え救命講習
東城方面隊水防訓練

REPORT ⑪



▲心肺蘇生法を学ぶ団員

庄原市消防団東城方面隊第一分団は6月2日、水防訓練の一環として心肺蘇生法・AED(自動体外式除細動器)を使用した救急救命講習を行いました。

東城消防署員が、一刻も早く救命処置をすることの意味や、AEDの使用法などを説明。団員36人は講習用の人形に電極をつけAEDを作動させたり、心臓マッサージをしたり実習を行いました。

松浦久夫分団長は「全団員がいつ、いかなる所でも起こりうる人命の緊急事態に直面したとき、慌てることなく率先して確実に対応できるように、一人一人のスキルアップを目指し、住民の安心・安全に役立てていきたい」と話していました。

REPORT ⑫

キャラクターで地域をPR
金田自治会が作製

口和町の金田自治会がキャラクターを作製し、地域づくりを盛り上げています。

キャラクターを描いたのは、金田地区にゆかりのある似顔絵作家いぬづかてつやさん(大阪市在住)。稲穂を持った「金田ちゃん」と、その妹として「さくらちゃん」を創りました。このキャラクターを自治振興区のシンボルにして地域をPRしようと、キャラクター付きのTシャツなどを作製。6月14日に開催された口和体育祭では、このTシャツをユニフォームにして、地域が一丸となって奮闘しました。

その他、金田自治会では、住民の誰もが楽しめるグラウンドゴルフ場と公園を整備。平成18年に完成した「金田さくら公園21」は、口和のイベント広場として多くの人が楽しんでいます。



▲「金田ちゃん」を背に、口和体育祭で奮闘。



▲金田地域を盛り上げる「金田ちゃん(左)」と「さくらちゃん(右)」

REPORT ⑦

絵本の楽しさを親子が体験
高野地区民児協がブックスタート

高野地区民生児童委員協議会児童部が5月29日、高野福祉保健センターで行われた「乳児相談」で、ブックスタートを行いました。

ブックスタートは、赤ちゃんの健やかな成長を願い、絵本を開く体験と一緒に、絵本を手渡す活動。絵本をただ配るだけでなく、絵本を開く時間の楽しさを体験してもらうことが特徴です。

民生児童委員と子育て推進委員は、手作りした布袋に絵本を入れ、参加した3組の親子に手渡しました。絵本を広げると、赤ちゃんは絵をじっと見つめたり、絵本を読む子育て推進委員の声に耳を澄ませたり、絵本を楽しんでいました。子育て推進委員の坂口薫さんは「家庭でも絵本を通して楽しいひと時を過ごしてください。また、地域全体で子育てを応援しているので、何かあったら一人で悩まずいつでも相談してください」と話していました。



▲絵本を楽しむ親子

小さな手に小さなお茶碗
西城子育て支援センターお茶会

REPORT ⑧

6月9日、西城子育て支援センター美古登子育て支援施設で、親子で一緒に楽しむお茶会が開かれました。

このお茶会は、お茶会の雰囲気や、抹茶の風味を楽しんでもらおうと企画し、今回が2回目。この日は、地域の子育て推進委員や0歳から2歳の子ども5人と保護者が参加しました。小さな手に合うように少し小さめに作られた茶碗が用意され、子どもたちは職員から簡単に作法について説明を聞いた後、配られたお菓子をほおぼり、職員や保護者が交代で立てた抹茶を「おいしい」と飲みほしていました。

西城子育て支援センターでは、毎月子どもと保護者、地域の方々が集える子育て応援事業を開催しています。子育てコーディネーターの道上直美さんは「子育てについての情報交換や子ども同士保護者同士の友だち



▲手に手を添えてお茶をいただく参加者

づくり、子育てに関する相談にお気軽にお越しください」と話していました。

REPORT ⑨

地道な防犯活動が認められる
高野町の個人・団体が県表彰



表彰を受ける会長の長瀬さん(左)・林さん(右)

(社)広島県防犯連合会の功労ボランティア団体に、高野町の地域安全パトロール隊「よろずクラブ」が選ばれ、5月25日に表彰されました。これは、長年の防犯活動などに尽力した団体を表彰するもので、県内各地

から14団体が受賞。庄原市からの受賞は平成18年度の庄原地区女性連合会本町支部以来で、高野町からの受賞は初めてになります。よろずクラブは、山林や田畑などへ放置してあった廃車を、スクラップ業者と連携して約220台を撤去したのを始め、メンバーが交代で高齢者宅の訪問活動、子ども見守り活動、高齢者に対するミニ防犯教室などを行っています。

代表の長瀬裕壮さんは「会員の皆さんの協力のおかげで受賞できた。これを励みにして、これからも活動ががんばりたい」と喜びました。また、林廣実さん(高野町)が30年間にわたり地域防犯活動に貢献したとして防犯功労者表彰を受賞しました。